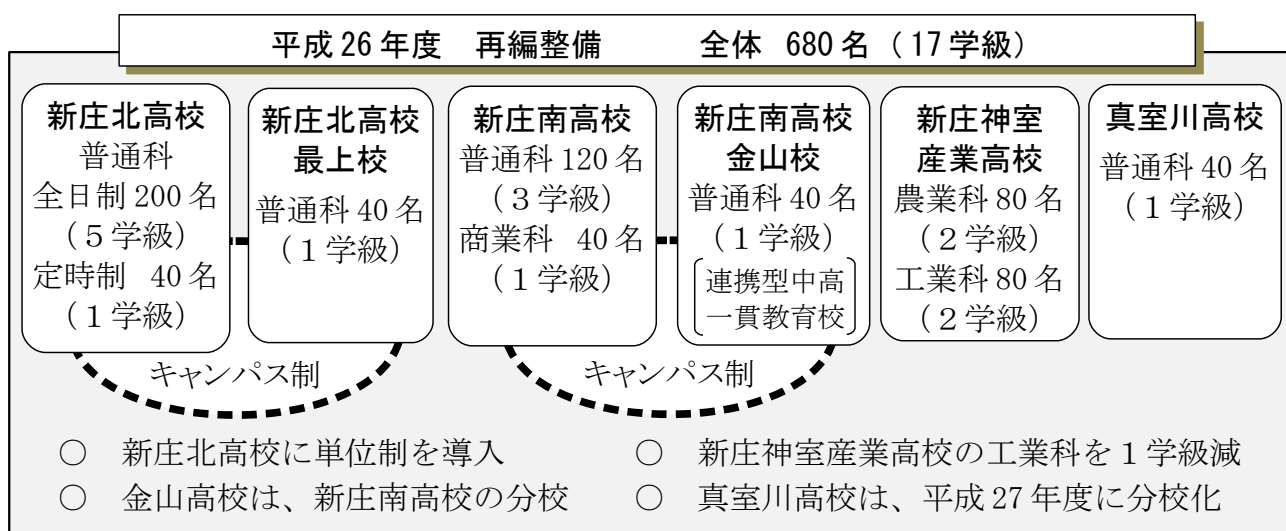


最上地区の県立高校再編整備計画【概要】

1 当面の計画



◇ 当面は、『県立高校教育改革実施計画』の〈統廃合に関する基本方針〉^{*}に基づき整備します。

^{*}

- 〔・2学級規模の学校:入学者数が入学定員の2/3に満たない年度が2回になったら1学級減
- 〔・1学級規模キャンパス制導入校:入学者数が入学定員の1/2に満たない年度が2回になったら募集停止

2 中長期的な計画

- 次期県立高校教育改革実施計画（仮称）期間（平成27～36年）終了時には、最上地区全体で480名程度（12学級程度）の入学定員となります。
- その中で、望ましい規模の学校を設置するためには、2校程度に再編する必要があります。
- 学校の配置、各学校の学科構成、多様な学びのスタイルを可能とする昼間定時制の設置等については、次期県立高校教育改革実施計画（仮称）期間後半に、検討を行います。

3 当面の各校の整備方針

新庄北高校（普通科 全日制 200名 定時制 40名）

- 単位制を導入し、教科の特性や生徒の学習目標に応じた少人数・習熟度別指導による授業展開を行い、生徒の学力向上を図ります。
- 生徒の学習ニーズに応えるため、より深く、より幅広く学ぶことのできる選択科目を開設し、一人ひとりの進学希望を実現します。
- 定時制課程については、将来的に昼間定時制に移行することも視野に入れ、さまざまな入学動機や学習歴を持つ生徒の多様な個性や学習ニーズに対応します。

新庄北高校最上校（普通科 40名）

- 本校とのキャンパス制を加えながら、地域との連携など多様なかかわりをとおして、郷土に誇りと愛着をもち、地域の発展に貢献できる生徒を育成します。

新庄南高校（普通科 120名 商業科 40名）

- 生徒の多様な学習ニーズに対応できるように特色ある選択科目を設定し、就職や進学など幅広い進路実現を図る学びを推進します。
- 普通科と商業科を併置している特徴を活かし、一人ひとりのキャリア形成を支援するとともに、視野を広げ豊かな知識と技能を持つ生徒を育成します。

新庄南高校金山校（普通科 40名）

- 本校とのキャンパス制を加えながら、連携型中高一貫教育を継続し、郷土に誇りと愛着をもち、地域の発展に貢献できる生徒を育成します。

新庄神室産業高校（農業科 80名 工業科 80名）

- 農工一体の特徴を活かしながら、社会の変化や産業の動向に対応した将来のスペシャリストを育成し、地域に根ざす専門教育を推進します。
- 地域産業や大学校等との連携を強化し、実践的な技術・技能を身に付け、地域社会と産業の発展に寄与できる生徒を育成します。

真室川高校（普通科 40名）

- 地域との連携など多様なかかわりをとおして、地域の発展に貢献できる生徒を育成します。
※ 平成 27 年度に分校となります。本校とする学校とキャンパス制については、平成 24 年度に決定する予定です。

4 今後のスケジュール

平成 24 年度	キャンパス制運営準備委員会〔新庄北高+最上校 新庄南高+金山高〕
平成 25 年度	
平成 26 年度	平成 26 年度再編整備の実施
平成 27 年度	真室川高校の分校化
	中長期的な再編の検討
平成 36 年度頃	2 校程度への再編

中学校卒業生数の減少に適切に対応するため、計画的な再編もありえます。